

9月19日（水曜日）から23日（日曜日）まで、
墓地では花と線香を用意しております。

不連続シリーズ「いっぶく紹介」 その8

不連続シリーズだなどと言いつつ、一昨年から連続して書いてきて、今回で8回目になる「いっぶく紹介」です。松岩寺にある墨跡を紹介してきたのですが、少し軌道修正して、身近にあるものばかりでなくて、色いろなところに題材を求めていきます。



ひのようじん てっさいよ

松岩寺にある墨跡を紹介するこの欄ですが、それでは見せびらかしているみたいで趣味がわるい、だから、前回と今回は少しばかり趣をかえました。今回は深谷市の国済寺さんが所持している色紙。今回はというと、栃木県塩原温泉にある妙雲寺に伝わる富岡鉄斎筆の「火要鎮」を、これまた国済寺さん経由でいただいたので紹介します。したがって真筆ではありません。印刷されたものです。

妙雲寺は車で行くならば、東北自動車道を那須塩原インターで降りて、ホウライ牧場を右手に見て、幾重にも曲がりくねった坂道を三十分ほど登ると塩原温泉郷があります。その温泉町のど真ん中にあり、境内に植えられた何千株ものボタンでも有名な寺です。そんなお寺の蔵から出てきたのが富岡鉄斎の「火要鎮」。貴重だからと複製されたおすそわけです。富岡鉄斎（一八三七年〜一九二四年）は江戸時代末

期に京都に生まれた、明治大正期の文人画家です。さて、「ようじん」を国語辞書でひくと、「用心」とでてくるだけで、「要慎」も「要鎮」もない。世界最大の漢和辞典『諸橋大漢和辞典』で「要」の字の熟語をしらべてもでてこない。ということは造語のようです。でも、火伏・防火の神社の総本山、京都の愛宕山のお札は「火廻要慎」です。書き下せば、「火はすなわち慎みを要す」。

松岩寺でお正月にお配りするのは「火の要慎」。鉄斎の「鎮」は鎮守さまの「鎮」ですね。「しずめる」の意味です。「火は心を鎮めて使え」というのでしよう。現代とは違って生の火が身近にくらでもあった時代。ちよつと間違えれば、すぐに大火になってしまう。そんな時代に「火」を押さえ込めようと、力強い筆致になったのでしょうか。極めて現代的な筆のリズムです。

募 集

声を出して元気になる 9月19日 水曜日 PM1:30 ~ 3:00

日時 9月19日（水曜日）
午後1時30分から3時まで
会場 松岩寺（本石1-102）
会費 五百円（当日、納めてください）
指導 加藤純子

お求めいただいた冊子『愛唱名歌』をご持参ください。お持ちでない方は、当日お求めください。（一冊千円）

前日までに左記へ電話・FAX・Eメールで申し込んでください

【申込先】 松岩寺
TEL 048(522)1812
FAX 048(522)9189
Eメール chief@shoganji.or.jp

不定期に開催の「声を出して元気になる」。不定期なので、少しのしか集まらないときもありました。

不定期は不定期なのですが、今春から月に一回のペースを守るようにしたら、少し人数が増えて、今十数人といったところでしょうか。こんな人数がちよつと良いかもしれせん。

ちよつと前回でしょうか。寺務所で仕事をしていると歌声が聞こえてきました。NHKテレビの復興支援ソング「花は咲く」です。被災地出身、あるいはゆかりのある歌手、タレント、俳優、スポーツ選手が「花は咲く」花は咲く、いつしか生まれる君にと歌うあれです。

今回の九月十七日の「節かたり説経」の冒頭に、この歌で片山和尚他のメンバーを迎えたら良いな！なんてアイデアもあったのですが、やめました。もつとすげーえー、オープニングがあるようなのです。ご期待を。